

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について(お知らせ)

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることなどに留意して分析を進め、このたび、名寄市小・中学校の児童生徒の学力や学習状況の傾向をまとめることができました。

つきましては、明らかになった課題を克服し、さらに児童生徒の学習改善や学習意欲の向上を図るために、学力や学習状況の傾向及び指導の改善策などについてお知らせいたしますので、皆様のご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

1 小学校の教科に関する調査結果の概要について

*「全国」とは全国の平均正答率のことです。

□・漢数字・()・記号は設問番号を示しており、調査問題は国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

また、改善策の例については、国立教育政策研究所の解説資料から一部を抜粋して掲載しています。

*国語・算数ともに、「知識」と「活用」を一体的に問う問題形式で実施されています。

国語

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 2三 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける。
〔設問の概要〕
面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く。
- 3二 目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。
〔設問の概要〕
丸山さんの【文章の下書き】の・・・部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す。
- 3三(1)ア 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。
〔設問の概要〕
丸山さんの【文章の下書き】の中の_____部アを、漢字を使って書き直す。
(ころがっている)
- 3三(1)ウ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。
〔設問の概要〕
丸山さんの【文章の下書き】の中の_____部ウを、漢字を使って書き直す。(つみ重ね)

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 1一 目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える。
〔設問の概要〕
津田梅子の二つの業績を明確に伝えるために、【スピーチメモ】と【スピーチ】の練習で上野さんが話した構成の説明として適切なものを選択する。
〔改善策の例〕
自分の考えや伝えたい内容を相手に分かりやすく伝えるためには、具体的な相手や目的を意

識して、話の中心を明らかにすることが重要である。その上で、意見や提案、報告などの話の種類やその特徴を意識することが必要である。その際、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別したり、詳しい説明を付け加えたりするなどの構成を工夫することが大切である。学習指導に当たっては、話しの構成の効果について考えたことを交流する場面を設定することなどが考えられる。

1二 資料を用いた目的を理解する。

〔設問の概要〕

津田梅子についての【スピーチ】の練習で、〈資料②〉と〈資料③〉を使った理由の説明として適切なものを選択する。

〔改善策の例〕

自分の考えを相手に伝えるためには、資料を活用しながら、聞き手の立場に立った上で、話す内容を見直すとともに、目的に応じて、どのような資料を準備し、どのように使うかということを確認することが大切である。スピーチをする際には、目的や意図に応じて、より効果的な資料提示の順番やタイミングなどがあることを理解し、自ら判断できるように指導を工夫する必要がある。授業の場面で、情報収集の際に集めた資料をすべて使おうとする児童の姿が見られる際には、自分の伝えたいことを伝えるために必要な資料は何かを、目的や相手、状況に応じて取捨選択できるように指導していくことが大切である。

3一 自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える。

〔設問の概要〕

丸山さんの【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する。

〔改善策の例〕

自分の主張を明確に伝えるためには、書く材料を整理したり関連付けたりして段落に書く内容を考えながら、文章全体の構成や展開を検討できるようにすることが大切である。その際、児童が自ら、自分の主張が効果的に伝わるかを確かめることができるように、主張と理由や事例をカードに分けて書いたり、それらを並べ替えたりするなど指導を工夫する必要がある。

3三(1)エ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。

〔設問の概要〕

丸山さんの【文章の下書き】の中の_____部エを、漢字を使って書き直す。(げんいん)

〔改善策の例〕

漢字の学習指導に当たっては、日常生活の中で適切に使うことができるようにすることが重要である。そのためには、読み方や字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、自分が書いた文章を読み返す中で、正しい使い方を習得できるようにすることが大切である。また、必要に応じて、漢字を使って、文や文章を書くという機会を設定することも大切である。

3三(2)オ 文の中における修飾と被修飾との関係を捉える。

〔設問の概要〕

丸山さんの【文章の下書き】の中の_____部オで、~~~~~部「すぐに」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する。

〔改善策の例〕

修飾と被修飾との関係に気を付けて、文の構成を理解することは、自分の思いや考えをより適切に表現する上で重要であることに気付くことができるようにすることが大切である。その際、修飾語には動きを表す語句を詳しくする場合と、ものや人などを詳しくする場合があることを理解できるようにすることが大切である。そのためには、修飾語を加えて文を詳しくしたり、修飾語がどの語句を詳しくしているのかをはっきりさせたりすることを指導することが重要である。また、修飾語は直前や直後の語句を詳しくすると捉えてしまうことがあるため、離れた語句を修飾する場合もあることを理解できるようにすることも重要である。

算数

<全国と比べて成果が見られた設問>

- ③(3) データを二次元の表に分類整理することができる。
〔設問の概要〕
「1 1 4」は二次元の表のどこに入るかを選ぶ。
- ④(3) 小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる。
〔設問の概要〕
30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く。

<全国と比べて課題が見られた設問>

- ②(1) 三角形の面積の求め方について理解している。
〔設問の概要〕
直角三角形の面積を求める式と答えを書く。
〔改善策の例〕
図形の面積の学習では、公式を導き出す過程において、図形のどこの長さに着目すると面積を求めることができるのかを理解できるようにすることが重要である。また、公式を用いて面積を求める際には、底辺と高さの関係を理解し、必要な情報を選び出すことができるようにすることも重要である。指導に当たっては、例えば、公式を用いる上で不要な辺や線分の長さを示した図を提示し、求積のために必要な情報を選び出す活動が考えられる。その際、図形に示された長さを全て用いるのではなく、図形と求積公式とを関連付け、必要な情報を選び出し、面積を求めることができるようにすることが大切である。また、水平な辺を底辺としている場合だけでなく、水平になっていない辺を底辺としている場合についても、必要な情報を選び出し、面積を求めることができるようにすることも大切である。
- ②(2) 複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる。
〔設問の概要〕
直角三角形を組み合わせた図形の面積についてわかることを選ぶ。
〔改善策の例〕
図形の面積の学習では、ある図形を分割して並べ替えても面積が変わらないという量の保存性や、二つの図形を組み合わせた図形の面積はそれぞれの面積の和になるという量の加法性といった基本的な性質を理解し、活用できるようにすることが重要である。指導に当たっては、例えば、平行四辺形の面積の公式をつくり出すために、方眼上の平行四辺形を分割し、それらを並べ替えて長方形に変形する活動が考えられる。その際、基本的な性質が用いられていることを理解できるようにすることが大切である。また、方眼上の4枚の合同な直角三角形を使って、いろいろな図形を作る活動も考えられる。その際、できた形だけでなく、4枚の合同な直角三角形を並べ替えているので面積が変わっていないということを意識できるようにすることが大切である。
- ③(2) 棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる。
〔設問の概要〕
学年ごとの本の貸し出し冊数を、棒グラフから分かることを選ぶ。
〔改善策の例〕
棒グラフから、目的に応じて各項目の数量の大きさを読み取ったり、最大値や最小値を捉えたりすることで、項目間の関係や集団のもつ全体的な特徴などを読み取ることができるように

することが重要である。本設問を使って授業を行う際には、図書室の本の貸し出しの様子を調べるために、棒グラフから最大値や最小値、差、割合、集団のもつ全体的な特徴などを読み取る活動が考えられる。その際、各項目の数量を比べ、棒の長さの違いに着目し、表現できるようにすることが大切である。また、データをグラフに表すことによって、集団のもつ全体的な特徴などが捉えやすくなることに気付くことができるようにすることも大切である。

2 中学校の教科に関する調査結果の概要について

*「全国」とは全国の平均正答率のことです。

□・漢数字・()・記号は設問番号を示しており、調査問題は国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

また、改善策の例については、国立教育政策研究所の解説資料から一部を抜粋して掲載しています。

*国語・数学ともに、「知識」と「活用」を一体的に問う問題形式で実施されています。

国語

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 1一 話合いの話題や方向を捉える。
〔設問の概要〕
話合いでの司会の発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する。
- 4四 伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く。
〔設問の概要〕
事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く。

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 1三 話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える。
〔設問の概要〕
参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く。
〔改善策の例〕
話題や展開を捉えながら話し合うためには、何についてどのような目的で話し合っているかといった、目指している到達点を常に意識するように指導することが大切である。その際、多くの発言によって考えを広げていく段階や、出された発言の内容を整理しながら考えをまとめる段階など、話合いにおけるいずれの段階においても、話題を意識しながらその経過を捉えて、話したり聞いたりするように指導することが重要である。また、このような展開を司会だけではなく、他の参加者が促すことができるように指導することも重要である。
- 2一 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く。
〔設問の概要〕
意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する。
〔改善策の例〕
目的や意図に応じて、読みやすく分かりやすい文章にするためには、読み手の立場に立って文章を整えるように指導する必要がある。その際、表記や語句の用法、叙述の仕方、表現の効

果などを確かめるように指導することが大切である。例えば、自分の考えを伝えたり印象付けたりする上で、書いた文章の表現がどのように働いているかを確かめるなどの学習活動が考えられる。その際、自分が書いた文章を説明や具体例、描写などに着目して見直し、これらの表現が、自分の考えを明確に伝えるために機能しているか、どのような効果を生んでいるかなどについて検討し、その上で誤解のない表現やより効果的な表現にしていくように指導することが重要である。

2二 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える。

〔設問の概要〕

意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く。

〔改善策の例〕

書いた文章を互いに読み合う際には、「構成の検討」「考えの形成」「記述」「推敲」の各段階を踏まえ、特に、当該学年で重点としている内容に着目するように指導することが大切である。その際、読み手は、書き手の目的と意図を理解した上で、単なる印象ではなく、具体的な部分や事柄を取り上げて助言などをするように指導することが重要である。また、書き手は、読み手からの助言を踏まえて、自分の文章が他者にどう読まれるかを自覚し、次の自分の書く活動へ生かす具体的な視点を得るように指導することも重要である。

3一 文脈の中における語句の意味を理解する。

〔設問の概要〕

「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する。

〔改善策の例〕

文学的な文章を読むためには、言葉を手掛かりにしながらか文脈をたどり、観点を定めて読むことが必要であり、そのことによって深い理解や感動が得られる。文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の相互関係や心情の変化、行動や情景の描写などに注意しながら読み進めるように指導することが大切である。その際、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈における意味を具体的かつ個別的に捉え、その語句が文章の中ではたしている役割を考えるように指導することが効果的である。また、指示する語句や接続する語句が、文章の中で果たしている役割などに注意するように指導することも効果的である。

3三 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する。

〔設問の概要〕

「反対の結果を呈出した」について、このことが分かる「黒」の様子を文章の中から抜き出す。

〔改善策の例〕

文学的な文章を読む際には、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えるように指導する必要がある。その際、目的に応じて、細部の描写にも着目しながら物事の様子や場面、行動や心情などの変化を丁寧に捉えるように指導することが大切である。また、近代以降の代表的な作家の作品を取り上げ、必要に応じて語注なども参考にして、登場人物の言動などを整理しながら内容をとらえるように指導することも効果的である。

3四 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分の考えをもつ。

〔設問の概要〕

「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く。

〔改善策の例〕

文学的な文章を読んで自分の考えをもつためには、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりするように指導する必要がある。そのうえで、改めて自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返ることで自分の考えを確かなものにするように指導することが大切である。学習活動では、引用の仕方について理解を深めるように指導することや、読書をすることによって、知識や情報を得たり、新しいものの見方や考え方を知ったり、自分の考えが広がったりすることを実感できるように指導することも有効である。

- 4三 伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く。
〔設問の概要〕
「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する。

〔改善策の例〕
言葉遣いについては、小学校での学習を踏まえ、敬語を含め広く相手や場に応じた言葉遣い全般について指導する必要がある。その際、公的な場面で改まった言葉遣いをするもののほか、会話をしたり手紙を書いたりする際に相手に応じた語句を選んで用いることなどにも留意するように指導することが大切である。学習活動では、自分の発信した情報がどう受け止められるかを想像したり、相手の状況や媒体の特性などを考慮したりして書くように指導することが重要である。

数学

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 3 扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している。
〔設問の概要〕
中心角 60° の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ。

- 4 関数の意味を理解している。
〔設問の概要〕
経過した時間と影の長さの関係を、「・・・は・・・の関数である」という形で表現する。

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 1 正式の加法と減法の計算ができる。
〔設問の概要〕
 $(5x + 6y) - (3x - 2y)$ を計算する。
〔改善策の例〕
文字を用いた式の計算が確実にできるようにするために、計算の法則を確認したり、計算の過程を振り返ったりする活動を取り入れることが大切である。本設問を使って授業を行う際には、正しい計算と誤りのある計算を比較して誤りの部分を指摘し、整式の計算で使われている計算の法則を確認する活動が考えられる。その際、第1学年で学習した文字を用いた式の計算と関連付けて考察し、正負の数の四則計算と分配法則の特徴を的確に捉え直す場面を設定することが考えられる。

- 2 具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる。
〔設問の概要〕
数量の関係を一元一次方程式で表す。
〔改善策の例〕
問題解決の場面で方程式を活用する際に、問題の中にある数量やその関係を捉え、一元一次方程式を作ることができるよう指導することが大切である。本設問を使って授業を行う際には、求めたい数量のノート1冊の値段を x 円とし、ノート2冊と筆箱を買ったときの代金 $2x + 800$ (円) とノート4冊とシャープペンシル1本を買ったときの代金 $4x + 500$ (円) が等しい関係にあることから、代金を表した二つの式を等号で結んで方程式に表せることを確認する場面を設定することが考えられる。その際、線分図などで整理して数量の関係を捉える活動を取り入れることが考えられる。

- 5 与えられたデータから中央値を求めることができる。
 [設問の概要]
 反復横とびの記録の中央値を求める。
 [改善策の例]
 データの特徴を捉えるために、代表値を求めることができるように指導することが大切である。その際、目的に応じてデータ全体を表す指標としてふさわしい代表値を選択し、それを的確に求める活動を取り入れることが考えられる。本設問を使って授業を行う際には、ある中学校の男子生徒10人が反復横とびを20秒間行ったときの記録における代表値や最大値、最小値、範囲の値を求め、それらを用いて反復横とびの記録の特徴を捉える活動を取り入れることが考えられる。
- 6(1) 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。
 [設問の概要]
 四角で囲んだ4つの数が12、13、17、18のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く。
 [改善策の例]
 予想した事柄が別の場合でも成り立つかどうかを確かめ、考察の対象を明確に捉えることができるように指導することが大切である。例えば、自然数を五つずつに区切った表において、縦に二つ、横に二つの数が入る資格で四つの数を囲んでそれらの和を計算し、「四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になる。」と予想した場合、その予想が成り立つかどうかについて、四角で囲んだ他の四つの数の和が「 $4 \times (\text{整数})$ 」になることを確かめる場面を設定することが大切である。
- 6(2) 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。
 [設問の概要]
 四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する。
 [改善策の例]
 事柄が一般的に成り立つ理由を、構想を立てて説明する場面を設定し、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにできるように指導することが大切である。本設問を使って授業を行う際には、予想した事柄である「四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になる。」ということを説明するために、四角で囲んだ四つの数の和を表した式を $4 \times (\text{整数})$ の形にすればよいという見通しをもって、変形する場面を設定することが大切である。その際、 $4n + 12$ という表現にとどまっているものを取り上げ、この式を用いて4の倍数になることを示すためには、「 $4 \times (\text{整数})$ 」という形の式で表せばよいことを確認するなど、 $4n + 12$ を $4(n + 3)$ と変形できるように指導することが大切である。
- 6(3) 数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる。
 [設問の概要]
 四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する。
 [改善策の例]
 数学の事象から問題を見だし、数学的な推論などによって問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って、数量や図形などの性質を見だし総合的・発展的に考察することができるようにすることが大切である。例えば、本設問のように、自然数を五つずつに区切った表で見いだした事柄について、自然数を六つずつに区切った表でも成り立つのではないかなど、条件を変えて考察することが大切である。その際、自然数を六つずつに区切った表では、四角で囲んだ四つの数の和は、2の倍数になることから、どんな数の2倍になるかを考え、左上の数と右下の数の和の2倍になることを見いだす場面を設定することが考えられる。
- 7(2) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。
 [設問の概要]

与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する。

〔改善策の例〕

日常的な事象における伴って変わる二つの数量について、観察や操作、実験などの活動から得られたデータを、表やグラフに表現することを通して、その二つの数量の関係を捉えることができるように指導することが大切である。本設問を使って授業を行う際には、伴って変わる二つの数量として「砂の重さ」と「砂が落ちきるまでの時間」に着目し、実験で得られたデータを座標平面や表に表し、表されたグラフや表のもつ性質を利用してその関係を見いだす活動を取り入れることが大切である。その際、表や数値を用いて求めた割合が一定であると考えたり、座標平面上に表された点が原点を通る一直線上にあると考えたりするなど、理想化したり単純化したりすることで、二つの数量の関係を比例とみなして問題を解決できるようにすることが大切である。

8(1) ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる。

〔設問の概要〕

気温差が 9°C 以上 12°C 未満の階級の度数を書く。

〔改善策の例〕

データの分布の傾向を捉える場面を設定し、目的に応じて度数分布表やヒストグラムにおける階級の度数に着目するなどして、必要な情報を読み取ることができるように指導することが大切である。本設問を使って授業を行う際には、収集したデータを基に、ヒストグラムを作成し、データの傾向を読み取る場面を設定することが考えられる。その際、作成したヒストグラムにおいて、目的に応じて階級の度数を的確に読み取ることが大切である。その上で、階級の小さい方からある階級までの度数の総和に着目して、データの傾向を捉えることも考えられる。

8(2) 相対度数の必要性と意味を理解している。

〔設問の概要〕

2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いることの前提となっている考えを選ぶ。

〔改善策の例〕

大きさの異なる二つ以上の集団のデータについて、その傾向を比較するために、相対度数が必要であることを理解できるように指導することが大切である。本設問を使って授業を行う際には、度数の合計が異なる二つの集団のデータの傾向を比べる場合、度数分布表の各階級の度数で比べてよいかについて検討する場面を取り入れることが考えられる。その際、6時間未満と6時間以上の度数の合計が異なることに着目して、全体（総度数）に対する部分（各階級の度数）の割合を示すことで、日照時間が6時間未満と6時間以上での気温差の傾向を捉える活動を取り入れることが考えられる。このとき用いた割合を相対度数といい、相対度数を用いると大きさの異なる集団の階級ごとの比較がしやすくなることから、相対度数の必要性を実感できるようにすることが大切である。

9(1) 平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる。

〔設問の概要〕

四角形 $ABCE$ が平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する。

〔改善策の例〕

事柄が成り立つことを説明するためには、何を示せばよいかを明らかにし、着目すべき性質や関係を見いだす活動を取り入れ、根拠を明確にして説明することができるように指導することが大切である。本設問を使って授業を行う際には、四角形 $ABCE$ が平行四辺形になることを説明するために、平行四辺形になるための条件を示せばよいことを明らかにし、どの条件を用いればよいかについて検討する活動を取り入れることが考えられる。その際、 $\triangle ABC$ と $\triangle CEA$ が合同であることを基に、対応する辺や角の等しい関係に着目して、平行四辺形になるための条件を確認する場面を設定することが考えられる。

- 9(2) 錯覚が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している。
 [設問の概要]
 錯覚が等しくなることについて、根拠となる直線FEと直線BCの関係を、記号を用いて表す。
 [改善策の例]
 論理的に考察し表現するために、結論が成り立つための前提を表現することができるように指導することが大切である。例えば、同位角や錯覚が等しくなるための前提となる2直線の位置関係を明らかにする活動を取り入れることが考えられる。本設問を使って授業を行う際には、四角形APDQが長方形になることを示すために、 $\angle APD$ が 90° になることがいえればよいことを明らかにし、 $\angle APD$ が 90° になることの根拠を説明する活動を取り入れることが考えられる。その際に、二つの三角定規を組み合わせてできた図形を表した図5を観察し、その図形の辺や角についての特徴を見いだす場面を設定することが大切である。その中で、錯覚である $\angle FAP$ と $\angle PBD$ が等しく 60° であることを捉え、そのことが2直線FE、BCの位置関係が平行であることから導かれるといった前提を明確にし、「 $FE \parallel BC$ より、 $\angle FAP = \angle PBD$ である。」などと表現することができるようにすることが大切である。
- 9(3) ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる。
 [設問の概要]
 $\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについていつでもいえることを書く。
 [改善策の例]
 条件を保ったまま動かした図形を観察し、辺や角について変わらない性質を見いだす活動を取り入れ、ある条件の下でいつでも成り立つ性質や関係を捉え、それを数学的に表現することができるように指導することが大切である。本設問を使って授業を行う際には、動かす三角形を $\triangle DEF$ から $\triangle GHI$ に変えて、同じ条件で $\triangle GHI$ を動かして観察することを通して、辺や角についての性質を見だし、それを数学的に表現する場面を設定することが考えられる。その際、 $\angle ARG$ と $\angle ASG$ について見いだした性質を共有した上で、さらにいえることはないか考えたり、見いだした性質を関連付けて考えたりする活動を取り入れることが大切である。

3 小学校の児童質問紙調査、中学校の生徒質問紙調査の結果の概要について

- ※ 「全国」とは全国の児童生徒が回答した割合のことです。
 ()は質問番号を示しており、質問事項は国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

◆小学校の児童質問紙調査の結果の概要について <全国と比べて望ましい傾向を示した項目>

項目	本市の児童の傾向
(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	「している」「どちらかといえば、している」という割合が高い
(3) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	「している」「どちらかといえば、している」という割合が高い
(7) 将来の夢や目標を持っていますか	「当てはまる」という割合がとても高い
(11) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が高い
(22) あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか(雑誌、新聞、教科書は除く)	「26冊以上ある」という割合が高い
(24) 今住んでいる地域の行事に参加していますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当

	てはまる」という割合がとても高い
(25) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が高い
(26) 5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか	「ほぼ毎日」「週1回以上」という割合が高い
(27) 学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか	「ほぼ毎日」「週1回以上」という割合がとても高い
(33) 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が高い
(34) 5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が高い
(35) 5年生までに受けた授業は、自分にあつた教え方、教材、学習時間などになっていましたか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が高い
(39) 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合がとても高い
(40) あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合がとても高い
(41) 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が高い
(42) 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が高い
(44) 国語の勉強は大切だと思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が高い
(48) 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が高い
(49) 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が高い
(51) 今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題についてどのように解答しましたか	「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」という割合が高い
(56) 算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が高い
(58) 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	「そうしている」「どちらかといえば、そうしている」という割合が高い
(62) 5年生までに受けた英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が高い。
(64) 去年（令和2年）の4～5月ごろ（新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた期間）、勉強について不安を感じましたか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が低い

＜全国と比べて努力を要する傾向を示した項目＞

項 目	本市の児童の傾向
(4) 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか	「きちんと守っている」「だいたい守っている」という割合がかなり低い
(5) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか	「2時間以上」という割合が高い 「3時間以上」という割合が高い 「4時間以上」という割合が高い
(8) 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が低い
(20) 学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか（インターネットを通じて教わっている場合を含む）	「教わっていない」という割合がとても高い
(21) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌を除く）	「30分以上」という割合が低い
(43) 国語の勉強は好きですか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が低い
(45) 国語の授業の内容はよく分かりますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が低い
(61) 英語の勉強は好きですか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合がとても低い
(63) これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビゲームやホームページを見る、英会話教室に通うなど）	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が低い

◆中学校の生徒質問紙調査の結果の概要について

＜全国と比べて望ましい傾向を示した項目＞

項 目	本市の生徒の傾向
(6) 自分にはよいところがあると思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が高い
(11) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	「当てはまる」という割合がとても高い
(22) あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除く）	「26冊以上ある」という割合が高い
(24) 今住んでいる地域の行事に参加していますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が高い
(31) 1、2年生のときに受けた授業で、学級の生徒との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか	「伝えていた」「どちらかといえば、伝えていた」という割合が高い
(34) 1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が高い
(37) 1、2年生のときに受けた授業では、学級の生徒との間	「当てはまる」「どちらかといえば、

で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	当てはまる」という割合が高い
(39) 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が高い
(40) あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が高い
(41) 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が高い
(42) 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が高い
(48) 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が高い
(49) 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしていますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が高い
(51) 今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題についてどのように解答しましたか	「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」という割合が高い
(60) 今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題について、どのように解答しましたか	「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」という割合が高い
(62) 1、2年生のときに受けた英語の授業では、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が高い
(64) 去年（令和2年）の4～5月ごろ（新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた時期）、勉強について不安を感じましたか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が低い

＜全国と比べて努力を要する傾向を示した項目＞

項目	本市の生徒の傾向
(5) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか	「1時間以上」という割合が高い 「2時間以上」という割合が高い 「4時間以上」という割合がとても高い
(10) 人が困っているときは、進んで助けていますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が低い
(17) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	「よくしている」「ときどきしている」という割合が低い
(18) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間を含む）	「2時間以上」という割合がとても低い 「3時間以上」という割合が低い
(19) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間を含む）	「2時間以上」という割合が低い 「3時間以上」という割合が低い 「4時間以上」という割合が低い
(20) 学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか（インターネットを通じて教わっている場合を含む）	「教わっていない」という割合がとても高い

(27) あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか	「ほぼ毎日」「週1回以上」という割合が低い
(38) 1、2年生のときに受けた授業では、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が低い
(45) 国語の授業の内容はよく分かりますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が低い
(46) 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が低い
(52) 数学の勉強は好きですか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合がとても低い
(54) 数学の授業の内容はよく分かりますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合がとても低い
(57) 数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が低い
(61) 英語の勉強は好きですか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が低い
(65) 去年（令和2年）の4～5月ごろ（新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた時期）、計画的に学習を続けることができましたか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という割合が低い
(67) 去年（令和2年）の4～5月ごろ、新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか（複数選択）	「自分で調べた」「友達や家族、先生等に聞いた」という割合がとても低い

4 学力向上の取組について

今年度の全国学力・学習状況調査の結果から、本市の児童生徒においては、各教科で基礎的・基本的な知識や技能の定着についてはほぼ図られている状況が見られます。

一方で、①根拠を明らかにして考える、②物事を関連付けて考える、③考えたことを条件に応じてまとめたり表したりする、といった力を身に付けさせることや、家庭での学習時間が短いこと、テレビゲームや携帯電話・スマートフォンを使用する時間が長いことなどが喫緊の課題となっています。

このような成果と課題を踏まえ、名寄市教育委員会では、学校において授業改善や学級経営の充実を図ることと、家庭において望ましい生活習慣や学習習慣を定着させることを「車の両輪」と位置付け、名寄市教育改善プロジェクト委員会を中心として、市内の小・中学校が一体となった学力向上の取組をさらに推進してまいります。

【主な重点】

(1) 授業改善

思考力、判断力、表現力等を育むために、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、発表や討議、ノート記述、レポート作成などの言語活動を次の視点から継続して充実を図ってまいります。

- 授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す
- 児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような指導に努める
- 児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進める
- 授業の最後に学習したことを振り返る活動を行う
- 問題の解き方や考え方がわかるようにノートにしっかり書く指導の充実に努める
- 全教科で目的や条件に応じて書いたり話したりする指導の充実に努める
- 学習したことが、他の学習や社会とつながっていることを実感できる指導の充実に努める

(2) 指導方法・指導体制の改善

学習内容を確実に身に付けさせるために、学年ごとの到達目標を設定し、個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導など、ICTを効果的・効率的に活用しながら個に応じた指導の充実を図ります。

(3) 学習規律の徹底

授業を効率的に進め、児童生徒の自ら学ぶ態度を養うため、全ての小・中学校で全学級における一貫した学習規律の確立を図ります。

(4) 学習習慣の確立

児童生徒が自分で計画を立てて、学年×10分(中学1年生を7年生、中学2年生を8年生、中学3年生を9年生とする。)を目安とした家庭学習の時間を確保する取組の充実を図ります。

(例：全国学力・学習状況調査の結果及び改善策について、児童生徒・保護者への丁寧な説明、家庭学習の手引き等の活用、学習計画の立て方や学習の進め方等に関する指導、予習－授業－復習のサイクルの確立等)

(5) 情報モラルの育成

全教育活動をとおして、計画的に情報モラルを確実に身に付けさせるための指導の充実に努めます。また、学校と家庭・地域が連携し、児童生徒が携帯電話・スマートフォンやテレビゲーム等の使い方について家の人と約束を決めることや、使用状況について必要に応じて家の人と話し合う機会をつくることなどの啓発に努めます。

(6) 学びに向かう集団づくり

学級が児童生徒の学びに向かう力を高める居場所となるよう、児童生徒理解を深め、児童生徒相互の信頼関係を高めることや協力して難しいことに挑戦しようとする雰囲気醸成することなどをとおして、一人ひとりが安心して学ぶことができる魅力ある学級経営の充実に努めます。